

第3回 北区新庁舎新築基本設計専門家会議 概要

- 日時 令和7年2月27日(月) 18:00～20:00
- 場所 Web会議
- 次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 新庁舎整備の現状報告について
 - (2) 吹き抜け形状の比較検討について
 - (3) 民有地の開発計画を踏まえた顔づくりの検討について
 - 3 閉会

●会議概要

1 開会

2 議事

(1) 新庁舎整備の現状報告について

○事務局より現在の進捗状況を説明

- ・現在の進捗状況を共有。

(2) 吹き抜け形状の比較検討について

○事務局より吹抜の検討について説明。

- ・吹抜の内部化、外部化について検討を行ってきた。コスト削減として大きな効果があり、内部化同様の豊かな空間となるのであれば、と外部化の可能性を探ってきたが、検討の結果、コスト削減の効果はさほど見込めなかった。

(3) 民有地の開発計画を踏まえた顔づくりの検討について

○設計者より低層部の空間構成の検討について説明。

- ・低層部の空間構成についてプロポーザル時の案からの変更点と経緯について説明を実施した。
- ・民有地側の計画に合わせて庁舎の顔の位置を再検討した。また建物の形状をシンプル化してコスト削減に対応している。
- ・高層階についても、建物の顔の位置を意識した外形形状に変更している。

●意見交換

- ・吹抜を小さくしたのはコスト削減が目的であると理解した。新たな基準階の平面図を確認すると従前案より面積が増えている。これは吹抜が小さくなった分、床が増えたということか。吹抜を小さくしたことで何故コスト削減になっているのか説明が欲しい。
→事務局としては、吹抜を削減し外形をコンパクトにすることで外装のコスト削減を行っているという理解している。
- ・吹抜を内部化した時にコミュニケーションの点でメリットがあるという話だったが、どのようなコミュニケーションを想定しているのか。視線のつながりなのか、階段を設けるなど動線的なつながり

りなのか、について説明頂きたい。

→階段などを使った移動に伴うコミュニケーションの発生を想定している。それは内部化でないと実現できないと思っている。

→設計者としては吹抜の内部化と外部化はどちらが良いと考えているのか。

→外部で働く心地良さというのがある反面、屋根がないと使ってもらえないという状況があるなかで、屋外的な内部空間が出来ればと思っている。中間期はトップライトを開けて自然風を取り込むことで空調負荷を減らしながら働ける場所になればいい。一方、屋外化で議論されたのはガラスによる物理的な境界がコミュニケーションの障害になるという点である。事務局と議論した結果、吹抜は内部化する方針で行くのが良いのではないかと考えている。

・コスト削減に関しては知見を活かしながら考えていきたい。特にプロポーザルから提案している地下なしの提案はコスト削減に対して大きなメリットになると考えている。デザインをしながらコストダウンをしていきたいと思っている。

→何に価値を持つかが今後重要な議論のポイントになると考えている。数字だけ追いかけて、ハピネスオフィスという大きなコンセプトがあるなかで、そこに未来に向けてどれだけの価値を作っていけるかということを議論したいので、ご意見を頂けると嬉しい。

・空調のランニングコストについても検討しているか教えて頂きたい。

→内部化であっても効率的な空調方式の採用を検討しているので大きな差はないように検討していく。

→オフィスほど空調を効かせなくてもある程度快適に過ごせるように、植栽などで快適性を増しながらトップライトからの排熱、トップライトを開いているときは換気を止めるシステムをつくることで新しい環境建築ができないかと考えている。

・庁舎オフィスの課題として縦割りで部署間の関わりが少ないことが挙げられる。慣習的な面もあるので直ぐに変わることは難しいと思うが、建築の力も必要と感じている。ビッグプレートは同じ空間に多くの人がいるという点で良いと言われている。フロアで区切られてしまう課題について、吹抜で上下階をつなげて、空間の一体感が感じられるため良い印象を受けた。吹抜を介して声掛けしないまでも、視界に入るだけでも効果がある。上下階の移動がエレベーターを介してだとコミュニケーションが減る。吹抜に上下で気楽に移動できる階段などがあると良い。「ハピネスオフィス」をコンセプトに掲げていることはとても良い。

・新しい案では民有地側の広場に面して顔を作ったため窓口フロアに上がるスロープの登り口を西側に移動した。また民有地側の広場に対して建物の引きを取ることで豊かな緑地と広場を計画している。新庁舎のアプローチ広場と民有地広場と交差点の向かい側の三角公園とを合わせた大きなにぎわい広場を意識して計画をしている。

・アプローチのスロープが緩やかに長くなったのは良いと思う。吹抜の議論については、おにクルが最近の例で評価が高い。真ん中に大きな吹抜がある建物。プリミティブな良さがあるのだと思う。吹抜には階段等何かしらの移動手段があると良いと思う。

- ・事務局として、吹抜空間はにぎわいの低層部と職員のための高層部で区切っても良いのではないかと考えているのだが、委員の意見を伺いたい。

→論点は3つあった。1つ目が3000㎡の面積区画がどこになるかということ。この区切り方が課題としてあった。2つ目が低層部のにぎわいと高層部のオフィスで性格が異なること。区民の窓口はにぎわいと一緒に計画できるが、議会やバックオフィスなどのセキュリティが高い機能は上の階に計画する必要がある。3つ目に、床で完全に区切ってしまうことに違和感があった。少しずつずれる床で区切りながらも一体の空間にすることができないかと考えた。音に対して優先度をつけるのであればガラスでの区画、風の通り抜けを優先するのであればオープンにするなどやり方を考えている。

→オフィスの話になるが、いかに多様な場所を用意するかが重要になっている。そこで重要になる要素がにぎわいと自然だと思っている。それを設計者がどのようにデザインするか。低層部のにぎわい部分にも、にぎわいを感じながら働ける場所があって欲しいと思った。

- ・15層垂直に設ける吹抜より、ずれる吹抜のほうが圧倒的に良いと思っている。低層、中層、高層で少しずつ違う吹抜があるような空間がよいのではないかと。

- ・シンプルな形状や作り方で豊かさを生んでいくような方向に収束していくとコストの面でも上手くいくのではないかと。

→どこに価値をつくっていくかという話でいくと、この吹抜の豊かさが最終的にハピネスに繋がるということを空間的に作れればと思っている。

- ・引き続き設計者と検討していきたい。

3 閉会

- ・コスト削減を強く要請されることがあると思う。長い目で見て区民のためになる計画を検討していることを説明して頂きたい。
- ・専門家会議がコスト管理者になることがないようにして頂きたい。